

小学校5年生の環境配慮行動や自然への興味関心に関する研究 —自然体験との関連性を視野に入れて—

学籍番号 8713 加藤正貴
指導教員 市川智史准教授

1 はじめに

環境教育においては、持続可能な社会の実現に向けて、一人ひとりが環境に対する責任のある行動をとれるようになることがねらいの一つとされている。また、環境教育の方法論として、自然体験やその他の体験を通じて学ぶことが重視されている。先行研究では、自然体験が、参加者の自然認識にプラスの効果を与えることや、間接的に自然環境についての学習意欲に影響を与えていること、過去の体験が現在の環境的行動につながっている可能性が示唆されている。しかしそれらは、組織キャンプのような、いわば特殊な状況・対象を取り上げて研究したものであり、その結果が一般的なものであるかどうかという点に関して疑問が残る。

本研究では、より一般的な現状を明らかにしたいと考え、次の2点を目的として、宿泊型自然体験活動を実施する小学校5年生を対象に、質問紙調査を行なうこととした。

- ①環境配慮行動、自然への興味関心の現状を明らかにすること。
- ②宿泊型自然体験活動と、環境配慮行動、自然への興味関心との関連性を明らかにすること。

2 調査方法

調査は宿泊型自然体験活動の前と1～2ヶ月後の2回行なった。調査対象は所在地の異なる5校と、比較対照校の計6校とした。調査票は「自然体験の頻度」「環境配慮行動の実践度(表2)」「自然への興味関心(表3)」「地球環境についての考え方」の4設問で構成した。各質問項目は関連資料を基に原案を作成し、予備調査などを経て修正した。

表1 調査対象小学校と宿泊型自然体験活動の実施先・期間

調査対象校の概要				宿泊型自然体験活動		
分析群	学校名	所在	対象児童数	場所	施設名	期間
滋賀	膳所小学校	滋賀県大津市	128名	琵琶湖湖上	湖の子	7/12-7/13
大阪	聖和小学校	大阪市天王寺区	65名	兵庫県篠山市	ユニトピアささやま	7/22-7/24
京都	山王小学校	京都市南区	30名	三重県志摩市	みさきの家	7/7-7/9
	陶化小学校		57名			
	東和小学校		21名			
対照群	金勝小学校	滋賀県栗東市	74名	調査期間中には実施せず		

表2 設問「環境配慮行動の実践度」

11. いらなくなったものは、リサイクルに回す	18. シャワーを使用するとき、こまめにお湯を止める
12. 暑いと感じたらエアコン(冷房)をつける	19. 冷蔵庫を開けてから、取り出すものを決める
13. 川原や公園、道路などの清掃活動にすすんで参加する	20. 家族や友達などと、環境問題について話し合う
14. テレビはこまめに消す	21. 普段の生活で、なるべくゴミを出さないようにする
15. エコマークのついた文房具を買う	22. 木を植えるなど、緑を守る活動にすすんで参加する
16. 環境に対してよいと学んだことを家族や友達に広める	23. 文房具は最後まで使う
17. 普段の生活で、ものを壊さないように大切に使う	

表3 設問「自然への興味関心」

24. 私は、星について、自分で調べることがある	30. 私は、虫が好きだ
25. 私は、木や草が好きだ	31. 私は、水辺にすることが好きだ
26. 私は、自然の中で過ごすことが好きだ	32. 私は、木や草について、自分で調べることがある
27. 私は、虫について、自分で調べることがある	33. 私は、星が好きだ
28. 私は、自然の景色をみるのが好きだ	34. 私は、自然のものを使って遊ぶのが好きだ
29. 私は、木々が周りがあると嬉しい	

3 結果および考察

調査結果は、次の三つの方法で分析した。分析1として、各質問項目を集計して得た回答分布から、小学校5年生の実態を把握した。分析2として、6月調査と9月調査のそれぞれの結果について、2群ごとに Mann-Whitney の U 検定を行ない、分析群間の共通性・相違性を調べた。分析3として、分析群ごとに、6月調査と9月調査について Wilcoxon の符号付順位検定を行ない、変化を調べた。

環境配慮行動の実践度について

- ①「物を大切に使う」「文房具を最後まで使う」「不要物をリサイクルする」など、エコライフの普及、近年よく言われる「もったいない」の精神が関係する行動の実践度が高い。

自然への興味関心について

- ②自然の事物に対して「好き」「嬉しい」といった程度で、その事物に対して、自ら「調べる」といった程度まで深化していない。
 ③学校以外での自然体験の頻度と直接的には関連していない可能性がある。

宿泊型自然体験活動と環境配慮行動・自然への興味関心との関連性について

- ④宿泊型自然体験活動と環境配慮行動には、明確な関連性は認められない。
 ⑤宿泊型自然体験活動は、自然への興味関心の低下の抑止と関係している可能性がある。

表4 設問「環境配慮行動の実践度」Wilcoxon の符号付順位検定の結果

項目	滋賀(6月)		滋賀(9月)		P	項目	京都(6月)		京都(9月)		P
	M	SD	M	SD			M	SD	M	SD	
12	2.45	0.79	2.67	0.98	.01	12	2.94	0.84	3.15	0.89	.02
13	2.32	0.99	1.89	0.93	.00	13	1.94	0.83	1.53	0.70	.00
16	2.29	0.96	2.02	0.90	.00	18	3.03	1.01	3.34	0.90	.00
						23	3.27	0.78	3.45	0.78	.02

項目	大阪(6月)		大阪(9月)		P	項目	対照(6月)		対照(9月)		P
	M	SD	M	SD			M	SD	M	SD	
12	2.67	0.96	3.08	0.82	.00	12	2.34	0.80	2.72	1.02	.00
						13	2.15	0.90	1.87	0.94	.02
						20	1.77	0.77	1.57	0.81	.02
						22	2.26	1.01	1.83	1.00	.00

※：有意差 (P<0.05) が認められた項目のみ

表5 設問「自然への興味関心」Wilcoxon の符号付順位検定の結果

項目	滋賀(6月)		滋賀(9月)		P	項目	対照(6月)		対照(9月)		P
	M	SD	M	SD			M	SD	M	SD	
32	2.30	1.04	2.14	0.96	.02	24	2.78	1.01	2.33	1.13	.00
						25	2.89	1.05	2.64	1.24	.02
						27	2.41	1.07	2.16	1.11	.01
						29	3.05	0.99	2.84	1.09	.03
						31	3.18	0.91	3.00	1.01	.04
						32	2.36	1.07	2.04	1.01	.01
						33	3.29	0.95	2.97	1.16	.00

※：有意差 (P<0.05) が認められた項目のみ